

●協働学習
■同時進行型

実践タイトル タブレットPCで画面を共有し、学び合う

本時のねらい

グループや全体で交流したことを活かし、工夫して観察カードを作成する。観察カードが提示された各自のタブレットPC画面をグループ内やクラス全体へ転送し交流させることで、気付きの質を高める。

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

タブレットPC

前時までに作成した観察カードをグループ内に転送し、友だちの観察カードの良いところやもっと知りたいことを伝え合うことで、気付きの質を高める。

静止画

タブレットPCの内蔵カメラで撮影した静止画を拡大させたり、特徴的な部分に注目させて撮影させたりすることで、細部まで観察させるようにする。また、観察の視点に沿って写真を貼り付けたり、観察文を記入させたりする。

参考にしてほしいポイント

本学級の児童は、1年生のころからICTの活用を積極的に行っているため、PCの立ち上げ、シャットダウン、保存などの基本的な操作のほかに、写真の撮影、写真の移動、手書き変換入力、協働学習支援ソフトウェアを使用した学習など、さまざまなスキルを習得しており、現在では教師の指示なしでも操作できるようになっている。それらのスキルを下地として、タブレットPCの画面を友だちと共有することで、気付きの質を深めることができた。また、画面を共有し発表し合うことで、話す・聞く力の向上にもつながった。

学習の流れ(分)	主な学習活動と内容	ICT機器・教材、コンテンツ等	
本時の展開	0 導入 15	○本時の課題を確認する。 ・本時の学習の流れ、文・写真・レイアウトなどの話し合いの視点を掲示する(写真1)。	
	40 展開	○前時までに作成した観察カードをもとに交流する。 ・グループでの交流 → 全体での交流 ○交流したことを活かして、観察カードの続きを作成する。 ・交流して見つけた友だちのよいところを取り入れながら観察カードを作成する。	・電子黒板 ・タブレットPC(グループ内、または学級全員に転送し、交流(写真2)) ・タブレットPC、タブレットPC内蔵カメラ、協働学習支援ソフトウェア(手書き文字認証を用いたり、カメラで撮影した画像を貼り付けて作成)(写真3)
	45 まとめ	○記入した観察カードを保存し、次時の学習内容を知る。 ・作成したものを確実に保存させる。	・教師用PC



写真1: グループでの話し合いの流れを黒板に掲示



写真2: グループ内で、友だちのよいところを発表



写真3: 交流したことを活かしてカードの続きを作成

児童生徒の反応

友だちと画面を共有することで、友だちの作品の良さに気付き、その良さを自分の作品にも活かそうとする姿が見られた。

活用効果

評価の観点	思考・表現
具体的変容	友だちと画面を共有し、交流することで、それまでの生きもの世話や観察を通して気付いたことや感じたことなどを工夫して観察カードに表現することができるようになった。

実践の手応え

撮影したたくさんの写真の中から観察カードに貼る写真を選んだり、写真の特に注目してもらいたい部分を丸で囲ったり印をつけたりすることで、観察文だけでは表現しきれないところまで表現することができた。また、画面を共有することで、話し合いの時に、一人ひとりが自分の画面でしっかり見合いながら話し合うことができ、より深い気付きへとつながることができた。また、写真だけに頼るのではなく、観察したことを自分の絵で書くことも必要であるので、その点については図工の学習でザリガニの絵を描く予定である。